

風景画「近江八景」の図像研究における画像の

データベース化及び Google Earth の利用

石立 裕子 綿抜 豊昭 時井 真紀 松本 紳

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

「近江八景」とは北宋代に創始されたといわれる山水画題「瀟湘八景」に端を発する、滋賀県琵琶湖周辺の 8 つの景勝地のことを示す。本研究では、「近江八景」の画像資料の保存と基礎情報の提供を旨としたデータベース化をし、世界的に普及している三次元地図情報システムである Google Earth を利用して、「近江八景」のもつ特徴を明らかにすることを試みた。なお、今回収集できた資料は版本の挿絵 6 点と一枚刷り 1 点の全 7 点である。

版本での型を分類し、18 世紀に京都で出版された 3 点と 19 世紀に江戸で出版された 3 点に分かれた。各景の主だった構成要素があることがわかった。Google Earth による実景との比較、八景の配列について明らかにした。

Building a Database and Using Google Earth for The Study of *Oumi-Hakkei*

Hiroko ISHIDATE, Toyoaki WATANUKI, Maki TOKII and Makoto MATSUMOTO
Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba

Oumi-Hakkei is the series of eight views at Biwa Lake in Shiga Prefecture. For conserving images of "*Oumi-Hakkei*", we made Database of images. By using Google Earth, which is world-famous 3D system of the information for map, we weighed the views against real landscape around Biwa Lake. Seven sets of *Oumi-Hakkei* were used in this study.

Six sets were sorted to two group for the type of print, A(printed in Kyoto in 18th century) and B(printed in Edo in 19th century). Its have some main icons for each views.

Moreover, it was revealed that some views have best position.

1. はじめに

同類のものをいくつかまとめて一定の数をつけて呼ぶ名称を〈名数〉という。風景の名数で代表的なものに「八景」がある。

「八景」は中国湖南省の景勝地である洞庭湖周辺の瀟湘地方で選ばれた八つの山水画題「瀟湘八景」に端を発し、日本においてもそれに倣って、各地でさまざまな「八景」が選定されてきた。現在およそ 838 の八景が知られている。(2007 年 4 月現在)[1]

今日では「八景」を普遍的な美しい景観の見本になるとし、今後の都市づくりや景観再生計画に生かす研究が進められている。[1]

しかし、「八景」の絵画作品についての研究はあまりなされておらず、専ら自然科学的視点からの研究である。[2]

よって、本研究では、日本の「八景」の中で最も著名な「近江八景」の作品群を例にして、データベースと Google Earth を用いて整理、比較し、人文科学的視点で考察を加え、「近江八景」の〈風景・景観〉観を明らかにしたい。

2. 研究目的

風景画として描かれるということは、そこに描かれるに値する景観・アングルが存在するというものであり、その場所に風景としての価値を与えられたことになる。

複数の同じ場所を描いた風景画を比較検討することで、画一的に描かれた場所と、多様な描かれ方をした場所を明らかにすることができる。前者は固定化し、伝統化した風景を持っている場所、後者は様々な角度から見るに値する場所であると言える。

こうした伝統の有無と、伝統がある場合、それがどのようなものを明らかにすることが研究目的の一つである。こうしたことが明らかになることで、その場所を描いた作品が伝統的なものか、独創的なものかという評価が可能になる。

画像データベースを作成することは、基礎的データの共有を意味し、資料の保存、煩雑な作業の簡略化になり、さらに作品の比較検討をスムーズにすることができると考えている。今回は「近江八景」に限るが、全国的な

「八景」の研究をする上では、共同作業としての研究にならざるをえない。全国的に展開した文化現象を研究する上で、資料のデータベース化は非常に有益ではないかと考える。

また、三次元的地図情報システムである Google Earth を利用することで、実景と作品の比較が可能になる。これにより、作品が何を絵に表わしたかったのかが見えてくる。

地図上でどのアングルから描かれているかを可視化し、傾向を明らかにする。

今回収集した資料は江戸期に出版された版本の挿絵と参考までに一枚刷りを 1 点取りあげた。

これらは現代でいう「生活百科事典」の類のもので、江戸の一般民衆の教養本であった。「近江八景」の知識化に役を担ったこれらの作品から、当時の「近江八景」像が明らかにできると考える。

また、1834 年ごろ出版されたといわれる広重の「近江八景」など、浮世絵風景画確立期の作品以前の作品が今回収集した 7 点中 4 点あり、「近江八景」が確立する以前の基礎的資料としての価値も高いと思われる。

また、Google Earth は、世界的に普及した汎用性のあるソフトであり、資料の共有という点で優れていると判断した。

さらに美術史研究を追及するならば、今回のソフトは不適切ではあると思われるが、基礎資料の共有という意味では適切であると考えられる。

3. 「近江八景」

日本で最も有名な「八景」の一つである「近江八景」のもととなった「瀟湘八景」は、北宋代の文人画家・宋迪によって創始されたと言われている。8 つの題はそれぞれ山市晴嵐・漁村夕照・烟寺晚鐘・瀟湘夜雨・遠浦帰帆・洞庭秋月・平砂落雁・江天暮雪である。[3]

選定した年代には諸説あるが、公卿の近衛信尹(1565-1614)によって現在の滋賀県にある琵琶湖を瀟湘地方の洞庭湖に見立てて選定されたのではないかというのが定説である。この 8 つのセットを維持したのが江戸狩野派であり、大衆に認知されたのは、元禄年間に入ってからである。[4]

「近江八景」の 8 つの題はそれぞれ栗津晴嵐・瀬田夕照・三井晚鐘・唐崎夜雨・八橋帰帆・石山秋月・堅田落雁・比良暮雪である。最初に選定された際に一景につき一首が添えられ、それをもとにした作品が多く描かれた。[4][5]

「瀟湘八景」との違いは「近江八景」の題にはそれぞれ近江の特定の場所の名が含まれている点にある。

詩歌を以下に示す。[5]

栗津晴嵐

嵐度栗津春興長 吹霞吹雨似相性
山花片々一芦浪 湖上閑鷗夢也香
雲はらふ嵐につれても、船も
千船も浪のあはつにそよる

勢多夕照

沙島風帆帯夕陽 夕陽人影與橋長
勢田曝網東山月 一色江天両景光
露時雨もる山とをくすき、つゝ
ゆふ日のわたるせたのなかはし

三井晚鐘

湖面朦朧盡不成 昏鯨高響出園城
霞間好是客船月 十倍楓橋半夜声
おもふそのあかつききるはしめとそ
まつきく三井の入あひの声

唐崎夜雨

激澗湖光朝露晴 玲瓏山色暮雲横
唐崎一夜摸稜手 半作松風半雨声
よるの雨にをとをゆつりてゆふ風を
よそにそたてるからさきの松

八橋帰帆

釣竿手熟白頭翁 辛苦客船西又東
幾度風帆歸去後 呂公榮達一盃中
まほひきて八橋にかへる船は今
うちいてのはまをあと追風

石山秋月

秋風蕭颯一天涯 霜滿四山不帶霞
古木回岩寒月影 吟殘葉々霧中花
石山やにほの海てる月かげは
あかしも須磨もほかならぬ哉

堅田落雁

鴻雁幾行更不孤 晚風帶月落東湖
囊沙背水堅田浦 猶見孔明八陣圖
みねあまたこえて越路にまつちかき
かたゝになひき落る雁かね

比良暮雪

吹入雲号飛入深 比良嶺雪暮紅寒
輕舟短棹興何盡 莫作剡溪一樣看
雪はるゝ比良のたかねのゆふくれは
花のさかりにすくる春かな

江戸後期に流行った浮世絵に描かれるようになる、さらにその名を広めた。『万代節用字林宝蔵』『百人一首』などといった一般に流布した版本に載るほど、「近江八景」は常識的教養として人々に知られていた。

本研究は、この「近江八景」が描かれた江戸期の版本を対象に、作品を収集した。収集した版本及び一枚刷りを表1に示す。収集した資料については表1の項目No.を用いて示すこととする。

②と④の版本名が一緒であるのは版が同じだからである。しかし敢えて研究対象にしたのかは、刊年が違うであろうことがわかったからである。②には絵の中にいる人の数が全部で5人増加している。

国文学研究資料館の日本古典籍総合目録で検索したところ、④が最終版なので、理論的には②の方が古いことになる。よって、②も④と同様18世紀後半頃に出版されたものと推測した。[6]

表1. 今回収集した対象資料の一覧

No.	刊年	形態	版本名	法量 (寸)	型	詩歌
①	不明	一枚刷	近江八景之圖	12.5×7	縦長	歌
②	不明	版本	倭節用悉改袋A	5×7.5	横長	詩歌
③	1782	版本	万代節用字林寶藏	8.5×7.5	正方	詩歌
④	1776	版本	倭節用悉改袋B	5×7.5	横長	詩歌
⑤	1858	版本	百人一首女訓抄	5.5×6	正方	歌
⑥	1816?	版本	萬億商賣往來福德蔵	5×7.5	横長	詩歌
⑦	1806	版本	新刻改正連玉古状揃寶箱	5×7.5	横長	歌

4. 研究手法

4.1 作品の比較とDB化

一景ずつ、要素は何であるか、どの角度から描かれているのかなどを記述していく。また、整理したデータはデータベースに蓄積する。データベースを構築せずとも比較検討は可能であるが、今後研究を進めていくに当たって、多大な量のデータを整理しなくてはならず、また資料を共有するためには、データベース化は必要であると思われる。

データベースに記述する項目は1セットの概要(表1)、視点場(表2)、移ろい(表2)、絵の構成要素(表3)である。また、これらの項目は先行研究を参考にした。[2][7][8]

表2. データベースに記述した項目(視点場と移ろい)②の例

ID	景	視点場				移ろい		
		水陸	視点角度	方角	境界	季節	時刻	天候
9	唐崎夜雨	陸	鳥瞰A	南	無	無	夜	雨
10	比良暮雪	水	水平	北西	山	冬	夕	晴
11	矢橋帰帆	陸	鳥瞰B	北	無	無	夕	晴
12	粟津晴嵐	水	水平	西	陸	無	日中	晴
13	石山秋月	陸	鳥瞰B	南東	山	秋	夜	晴
14	堅田落雁	水	鳥瞰A	北	山	秋	無	晴
15	勢田夕照	陸	鳥瞰B	南南東	山	無	無	晴
16	三井晚鐘	水	鳥瞰B	南西	山	無	夕	曇

表2、表3は共に収集資料②のデータである。IDは一つの景にそれぞれ一つずつ割り当てた番号である。今回収集した資料は7セットなので、現時点でIDは1から56までである。また、資料により八景の並びが違うので、景の並びは収集資料の通りにしIDを付けた。

視点場の水陸とは、絵の中でその風景を見ていると推測される場所(視点場)が琵琶湖上であるか陸上であるかを示した。視点角度は視点場から対象物に対しての角度を示している。鳥瞰A、鳥瞰B、水平、仰瞰で示した。

鳥瞰だけAとBに分類したのは見え方に幅があったからである。

鳥瞰Aは視点場が空中ではあるが、比較的低空で絵の主な構成要素(主要素)に対して近いものを分類した。

鳥瞰Bは、視点場が比較的上空に位置し、主要素から遠いものを分類した。例えば、本稿の5.1型にある④の「堅田落雁」(図5)は鳥瞰Aに当たり、③の「石山秋月」(図3)は鳥瞰Bに当たる。

方角は視点場から見ている方角、境界は空との境界線が何であるかを記した。

移ろいでは、季節・時刻・天候を記した。

表 3. データベースに記述した項目(絵の構成要素)②の例

ID	絵の構成要素						
	人数	近景		中景		遠景	
		自然	人工物	自然	人工物	自然	人工物
9	0	木	人家	松、湖、雨、雲	唐崎神社・鳥居、舟		
10	0	雲		湖、松林、樹	人家	比良山系、雲	
11	6	湖	人家	湖	舟、帆船、人家		
12	8	湖	舟	湖、松	膳所城、道	松林	人家
13	1	樹	人家	山肌、木	石山寺本堂	川、対岸、月	
14	1	湖	人家、舟	木	浮御堂、人家	雁、松林、山	
15	8		人家	瀬田川、島、松	唐橋、舟	対岸の山、霞	
16	1	雲、湖		山、木	三井寺、鐘樓	山、雲	唐院等

絵の構成要素には人が何人描かれているか、近景・中景・遠景にはそれぞれ何が描かれているのか。それは自然物か人工物であるかを分けて記入した。近景・中景・遠景の基準は、近景は下三分の一、中景は真ん中、遠景は上三分の一に描かれているもので分類した。

例えば、図1は、ID12に当たる。

近景に琵琶湖、舟がある。中景には琵琶湖に含め、膳所城と城内に生える松、人々が歩いている道が見える。遠景には松林と人家が見えるのがわかる。

人の数は舟に5人、街道に3人いるので、全部で8人である。

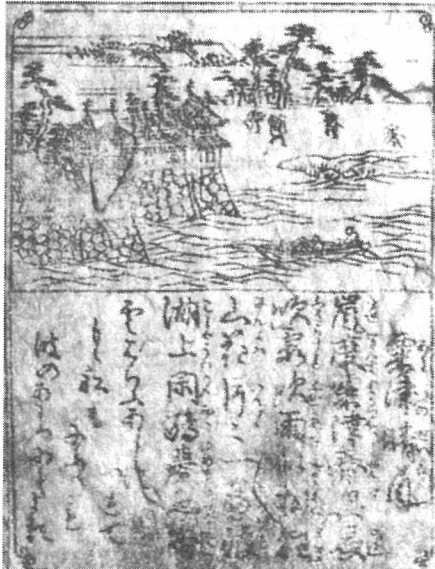


図 1. ②の「粟津晴嵐」

表 2、表 3 に記述した語はいずれも検索できるようにし、該当する画像を並べて閲覧できるようにした。

4.2 研究手法 Google Earth の利用

現段階では、収集した作品を一景ごとにその絵と合致する視点場を Google Earth 上で同定し、[追加]機能から[写真]として画像を取り込み、作品の視点場に配置している。この際注意している点は以下のとおりである。

- I. 作品の視点場からの景色が、鳥瞰・水平・仰瞰のいずれであるか。
- II. 作品中の要素が地図上で合致しているか。
- III. また、合致しないならばそれは作品の独創性によるものか、または既に存在しないものとなっているのか。

また、作品の視点場と視線領域を可視化するために、ポリゴン機能を使って視点場から視線領域を三角形に表示できるようにした。(図1)

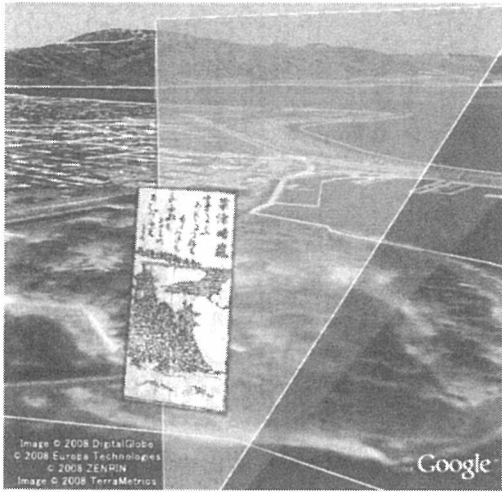


図 2. Google Earth 上での表示例
①の「栗津晴嵐」



図 3. タイプ A から③の「石山秋月」

5. 考察

以上の研究方法を用いて「近江八景」作品群を比較し、考察を加えた。しかし、研究対象となる資料が7点と少ないため、今回は資料の整理に留まった。

5.1 型

版本に記載された6点を型のAからCの3タイプに分類した。①は一枚刷なので、今回はここで含まない。

《タイプ A》

タイプ A には②③④を分類した。

形は縦長で、上段・下段に分れており、上段に絵、下段に八景名・八景詩・八景歌が刻されている。図3は③の「石山秋月」である。

漢字には全て読み仮名が記されており、八景詩には返り点も付されており、庶民にも読みやすいようにされている。このタイプは一葉に占める割合も大きく、絵が細かいことが特徴である。

版式は、毎半葉に二景ずつ刻されている。絵の中に文字が混ざっていないのはこのタイプのみである。

②③④は全て京都で出版されており、近江に近かったからこのタイプだったのか、また②③④はいずれも18世紀後半に出版されているので、そちらに起因するのか、収集した資料が少ないので、現状では言及できないが、今後さらに研究をすすめるつもりである。

《タイプ B》

タイプ B には⑥を分類した。

形は横長で、左右に分れており、右枠に八景詩、左枠に八景名、八景歌及び絵が刻されている。図4は⑥の「三井晩鐘」である。

絵の枠内に、文字が入ったことにより、絵の幅が狭くなっている。文字にルビが付ってあるのはタイプ A と同様である。版式は毎半葉に一景のみである。

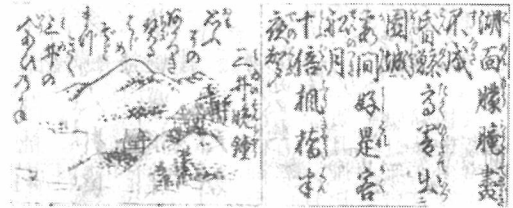


図 4. タイプ B から⑥の「三井晩鐘」

《タイプ C》

形は横長・正方形で、タイプ B の右枠がなくなっただけの形式になる。絵枠の中に、八景名、八景詩も刻され、漢字には読み仮名が付されている。見開きで八景が全て収まるように刻され、毎半葉に2段組に四景色ずつつままっている。図5は⑦の「堅田の落雁」である。

絵枠の中に八景歌が刻されているタイプ B・C はいずれも19世紀に江戸の版元によって出版されたものである。タイプ A を上方風、タイプ B・C を江戸風と言

えるのか、今後研究を進める過程で明らかにしたい。



図 5. タイプ C から⑦の「堅田落雁」

また、今回は取り上げなかった版本に、一枠の中に二景描かれているタイプもあった。『一代書用筆宝鑑』といい、刊年が明確ではないが、18 世紀前半に京都で出版された版本である。

17 世紀後半に出版された『本朝女鑑』には「八景」としてではなく、石山寺から見える景勝地として勢田、矢橋、唐崎、三井寺のみ紹介されている。

5.2 主な構成要素

絵の構成要素を見比べると、描かれている画材の多寡に差があることがわかる。

以下に示すのが⑤以外の全てのセットで描かれていた絵の構成要素である。

粟津晴嵐：膳所城、松林
 勢田夕照：唐橋
 三井晩鐘：長等山、鐘楼
 唐崎夜雨：唐崎の松、唐崎神社の社と鳥居
 矢橋帰帆：帆船、港
 石山秋月：月、石山寺本堂
 堅田落雁：雁、浮御堂、芦
 比良暮雪：比良山山系

⑤は 7 点中最も新しい版本にあたり、また最も法量が小さいセットであり、三井晩鐘の鐘楼、唐崎夜雨の唐崎神社の社と鳥居、石山秋月の石山寺本堂(図 5)の三景で主要素となる要素が描かれていない。

「瀟湘八景」では、晩鐘は煙のみで寺の存在を示し、夜雨は湖面に降る雨で題意を示し、秋月は湖面に映るもしくは山際に上っている月が題意を示している。

⑤で省略された主要素は「近江八景」ならではの画材なのであり、省略も許されたのではないかと推測する。

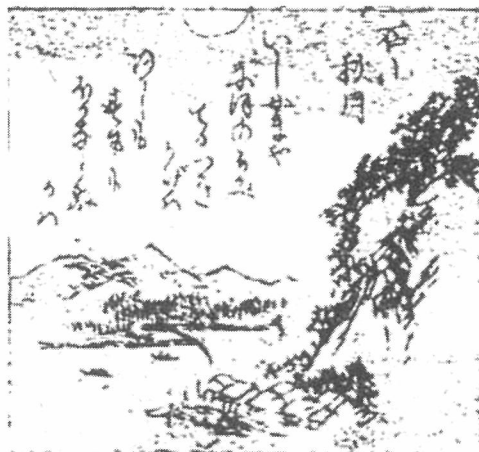


図 6. 主要素である石山寺本堂が描かれていない⑤の「石山秋月」

その他にも描かれる構成要素でいくつか注目した。一つは、三上山である。三上山はその姿の美しいことから「近江富士」とも言われた。また、伝近衛信尹撰の「近江八景」が流布する以前の室町後期には三上秋月も選ばれたことがあるという説もあるほどである。[4]

月見亭及び日本最古の多宝塔として有名な石山寺の多宝塔は「石山秋月」に描かれた場合(③)があった。

月見亭はその名の通り月を観賞するための建築物であり、「石山秋月」の景を観賞する地である。[9]

しかし構成要素として描かれるのが専ら本堂であるのは、紫式部の源氏の間の存在によるのではないかと。紫式部が本堂から見た月が美しかったので「源氏物語」が生まれたという伝説が有名であったことにより、“月見は本堂”で「石山秋月」の構成要素として定型化していったのだと推測した。[9]

5.3 実景との比較とアングル

画像を Google Earth 上に添付していく過程において、判断に窮した画像が 3 点あった。①の三井、③の三井、⑦の三井である。山中の境内にある鐘楼を風景画で描くのは難しいのであろうか。それとも天皇縁の寺であるため、一般民衆は入りづらかったということがあったのだろうか。

アングルについて言及したい。「粟津晴嵐」において、①～⑥は湖上または陸で

南から北への方角へのアングルが目立った。

⑥は遠景に比良山系を描いており奥行きのある絵になっている。江戸後期の浮世絵師による「近江八景」も南からのアングルが多い。

「瀬田夕照」もまた、⑦以外は小橋の方から斜めに描くアングルであった。①と⑤は橋を左手に見る位置から、②③④は橋を右手に見るアングルになっている。

夕日は小橋の方から日が射すはずなので、夕照の時間帯に①～⑥のアングルにいと、順光で光る橋が見ることができる計算になる。

「三井晩鐘」は、①と③は遠景に湖面が要素に含まれている。②・④～⑥は湖側からの描写、⑦はそもそもの位置が不明である。

「唐橋夜雨」は、②・④以外は南からのアングルになっている。陸側も湖側もある。夜雨は天候が悪いので、遠景に何も描かず中景に松を配置しているのが全てである。

「矢橋帰帆」は、①～⑤まで南からのアングルになっている。⑥・⑦は北からのアングルである。湖上を視点場にしていいるのは⑥のみである。「帰帆」であるからやはり帰ってくる港が視点場になりやすいのか。

「石山秋月」は、③以外は北側からのアングルになっている。③は南からのアングルになっており、月は北西に浮かんでいる。⑦の月も北西にあり、その他の絵は南東に月がある。

「堅田落雁」は、①②④⑥が浮御堂を左に見るアングル、③⑤⑦が浮御堂を右に見るアングルである。これは綺麗に分かれた例である。どちらから見ても美しいということだろう。

「比良暮雪」は、①のに対岸からの眺めになっている。②④⑥⑦は北西に向けて、③⑤が南西に向けてのアングルになっている。

5.4 八景画題の順序

八つの景色の描かれる順序に着目した。

①は近江の版元による一枚刷で主に観光用に制作されたものと推測できる。描かれている順序も石山・勢田・粟津・矢橋・三井・唐崎・堅田・比良となっており、南から北へ実際に上って行けば、一枚刷と同様の風景を楽しめる順序となっている。

②と④は同じ版なので順序が一緒なのは当然であるが、この二つと似通った順序

になっているのが⑦である。②・④は唐崎・比良・矢橋・粟津・石山・堅田・勢田・三井の順であるが、⑦は比良と矢橋の順序が逆になっているのみであとは同順である。

6. おわりに

本研究は、基礎資料という位置付けをし、収集対象とした資料を江戸期の版本及び一枚刷に絞ったが、もっと広く時代を超えた作品を対象に比較考察しなくては、約500年の長い歴史を持つ「近江八景」の図像研究における全容は見えてこない。よって、今後より多くの作品を収集していく必要がある。

広重の魚栄版「近江八景」の「瀬田夕照」は、⑤の構図と近似している。⑤は嘉永年間には出版しているの、魚屋栄吉版の安政よりも先である。広重がこの版を参考にしたかどうかはわからない。⑤が他の版を真似たのかもかもしれない。しかし、このような視点場の歴史的流れが掴むことができる研究にまで昇華したいと思う。

また、現段階では画像データベースをGoogle Earthの機能と連動させる予定はないが、もしできたらより画像と画像の情報、地図情報が連動し、スムーズに研究ができるようになるのではないかと。さらにシステムを研究者間で共有することによって、より多くの資料が集まり風景画の図像研究の推進につながるだろう。また、研究者のみならず、景観計画や地域振興事業、観光事業に従事する人々にも有益な研究手法である。

参考文献

- [1] 青木陽二、榊原映子編. 八景の分布と最近の研究動向, 独立行政法人国立環境研究所, 2007, Vol.197, 255p.
- [2] 上野訓, 鈴木信宏. 江戸八景にみる移ろいとその構造, 日本建築学会記述報告書, No. 4, pp.98-102, 1997.
- [3] 宮崎法子. 花鳥・山水画を読み解く: 中国絵画の意味. 角川書店, 2003, 255p, (角川叢書, 24).
- [4] 京都新聞社, 滋賀県立近代美術館編. 近江八景: 湖国風景画の成立と展開特別展. 滋賀県立近代美術館, 174p, 1988.
- [5] 芳賀徹, 風景の比較文化史, 比較文学研究, Vol.50, pp.1-27, 1986.

- [6] 国文学研究資料館 電子資料館 日本
古典籍総合目録.
<http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>(2008/11/13 参照).
- [7] 笹谷康之. 地形の意味に関する研究.
東京工業大学学位論文, Vol. 51,
pp.144 - 153, 1990.
- [8] 野上陽子. 八景式風景鑑賞法による
風景解釈の現在の有効性に関する
考察 金沢八景を事例として. 社団
法人 日本建築学会, No. 3, pp.71-
77, 2005.
- [9] 人文社観光と旅編集部. 郷土資料
辞典 滋賀県・観光と旅. 人文社,
1974, 214p, (県別シリーズ, 24).